

## 「生誕 100 年 中村正義展—その熱と渦」を開催します

豊橋出身の日本画家<sup>なかむらまさよし</sup>中村正義の生誕 100 年を記念する展覧会を開催します。日本画壇に反旗をひるがえしたことで「異端児」「風雲児」と呼ばれた正義の回顧展は、これまで美術博物館で過去二度開催しています。このたびは正義の代表作だけでなく、彼と深い縁を結んだ周辺作家にも注目し、正義の絵画の源とその広がりを探ります。約 180 点の作品を 1 階と 2 階の全室を用いて展示する大規模回顧展です。

■展覧会期：2025 年 2 月 22 日（土）～3 月 30 日（日）

（前期 2 月 22 日～3 月 9 日／後期 3 月 11 日～30 日） \*一部展示替えあり

※2 月 21 日（金）午後 2 時より開場式・内覧会開催（中村正義の長女・倫子さんも臨席予定）

■会場：豊橋市美術博物館 1・2 階全展示室 1～9

■観覧料：一般・大学生 1,200（1,000）円 小・中・高生 600（500）円

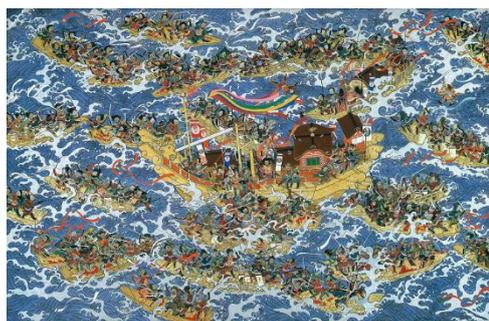
※（ ）内は前売または 20 名以上の団体料金

■出品点数：185 点 中村正義作品 147 点（日本画 104 点、顔 23 点、下図素描 20 点）

関連作家 26 人（中村岳陵、高山辰雄、片岡球子 ほか）38 点

### 見どころ①正義の「熱」

- ・映画『怪談』の挿入画として用いられた《源平海戦絵巻》4 点（東京国立近代美術館蔵）は、各 500 号（212.5×334.0cm）の大迫力。なかでも「海戦」の展示は四半世紀ぶりです（前期・後期で 2 点ずつ展示）。3 月 15 日には作品の前で琵琶演奏を開催します。※詳細は添付チラシをご参照ください。
- ・自画像のバリエーションとして手がけた《顔》は生涯で 400 点に及ぶとされています。中村正義の美術館所蔵の約 30 点で壁面を埋め尽くします。



源平海戦絵巻 第 2 図「海戦」（東京国立近代美術館蔵）前期展示

### 見どころ②正義の「渦」

- ・正義が生涯でかかわった作家として、師である中村岳陵をはじめ、美術研究グループの高山辰雄・山本丘人・片岡球子・横山操などの代表作を紹介。どのように正義の絵画がつけられたのか、対比することで正義の画風の成り立ちと影響などをみることができます。
- ・正義の好奇心と情熱は日本画制作だけでなく、多様なジャンルに向かいました。舞台美術、ポर्टレイト、写楽や建築研究など、正義ワールドの広がりをご覧ください。

### 関連展示：こどもたちの「顔」

- ・美術博物館では市内小学校を対象に出前授業「正義の顔でふくわらい」を行っています。これまでの授業の中でつくられた作品を中央ラウンジで特別展示します。
- ・会期中開催するワークショップでは、上記プログラムを体験できます。※要申込、詳細は添付チラシをご参照ください。

### 中村正義プロフィール 1924-1977／大正 13 年-昭和 52 年

豊橋市のこんにやく屋「織九」の末子として生まれる。中村岳陵に師事し、日展で二度特選受賞。36 歳の若さで審査員となり将来を嘱望されるが、翌年日展から離脱。以後激しく奔放な作風へ転じ、日本画壇に挑む多彩な活動を展開した。52 歳で病没。

第V章

深掘り！  
中村正義を  
よみ解く

代表作の展観では語りきれない、正義の多様な側面と取り組みを紹介！

- ①「自画像から顔へ—自己への凝視」
- ②「風景と山水—写生から心象風景へ」
- ③「花と女—色彩の実験」
- ④「多面的活動—挿絵・ポートレイト・舞台・建築・浮世絵研究」
- ⑤「祈りの造形—仏画・水墨人物・書」



本展カタログに漫画家・河井克夫のオリジナル漫画「正義・舞妓・マイラブ」(8P)を掲載！

- ◎記念トーク  
「中村正義の美術館」館長の中村倫子氏(作家長女)をはじめ、研究者や造形作家、担当学芸員が、熱く、深く、正義について語り合います。
- ①2.22(土)「中村正義とは何者だったのか」  
山田諭氏(美術史家)×中村倫子氏(中村正義の美術館館長)
  - ②3.1(土)「中村正義の模索と葛藤—一采社と蒼野社」の時代  
野地耕一郎氏(泉屋博古館東京館長)×勝山滋氏(平塚市美術館学芸員)
  - ③3.8(土)「中村正義との30年+」ギャラリートーク  
大野俊治氏(碧南市藤井達吉現代美術館特任学芸員)
  - ④3.15(土)「中村正義の造形」  
飯内佐斗司氏(彫刻家・奈良県立美術館館長)×深谷聡氏(奈良県立美術館学芸員)
  - ⑤3.20(木・祝)「中村正義・漫画化計画」  
河井克夫氏(漫画家・俳優)
- [共通事項] 会場=①②④⑤1階講義室(申込不要・聴講無料) / ③展覧会場(申込不要・観覧料必要)  
時間=①②④14:00-15:30 / ③⑤14:00-15:00 進行=当館担当学芸員
- ◎琵琶演奏会  
「中村正義(源平海戦絵巻)とともに」  
奏者=田中之雄氏(鶴田流琵琶研究会会長) 演目=「悠久の調べ」「壇ノ浦」  
日時=3.15(土) 16:30-17:30(16:30までに入场) 会場=1階第3展示室(申込不要・観覧料必要)
- ◎ドキュメンタリー映画「父をめぐる旅」  
日時=会期中の毎週日曜日14:00-15:30 会場=1階講義室(申込不要・鑑賞無料)
- ◎春休みワークショップ「まさよしの顔でふくわらい」  
日時=3.22(土)、29(土) 各日14:00-15:00 対象=小学生以上(親子でご参加いただけます)  
会場=1階講義室(各回24名・参加無料) 講師=当館教育普及担当職員  
申込=当館ホームページから3.1(土)より受付



[表面図版]  
中村正義  
《源平海戦絵巻 第3回「玉楼炎上」》  
1964年  
東京国立近代美術館蔵【後期展示】



豊橋市美術館 440-0801 愛知県豊橋市今橋町3-1(豊橋公園内)  
TEL:0532-51-2882 FAX:0532-56-2123 <https://www.toyohashi-bihaku.jp/>  
[公共交通機関]JR・名鉄「豊橋」駅前より市電乗車「豊橋公園前」下車 北へ約250m  
[自動車]国道1号線「八町通三丁目」交差点を北へ(駐車場70台・駐車券処理で3時間無料)



2025.2.22 sat. [前期] 2.22 sat. - 3.9 sun. [後期] 3.11 tue. - 3.30 sun. 3.30 sun.

開館時間 | 9:00-17:00(入場16:30まで) 休館日 | 月曜日(ただし、2.24は開館し、翌25は休館)  
主催 | 豊橋市美術館、中日新聞社 協力 | 中村正義の美術館  
観覧料 | 一般・大学生1,200円(1,000円) 小中高生600円(500円)  
\* ( )内前売りまたは20人以上の団体料金。前売り券は豊橋市美術館、豊橋市二川宿本陣資料館、豊橋市役所じょうほうひろば、チケットぴあ(Pコード:687-141)/CNプレイガイド(CNC-37319)で2.21まで販売(豊橋市美術館は2.16まで)。/身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と引率の方は無料(マイロIDが利用できます)。/「ほの国こどもパスポート」をお持ちの東三河地区の小中学生は無料。/豊橋市在住70歳以上の方は割引料金(600円)。



豊橋市美術館  
TOYOHASHI CITY MUSEUM of ART & HISTORY

— その熱と渦 —



正義

「異端」「鬼才」「風雲児」—さまざまな呼び名を与えられた中村正義(豊橋出身/1924-1977)。

日展画家として前途を嘱望されながら、会員に推挙された1961年に師中村岳陵のもとを離れ、日展を脱退した正義は、以後旧態依然とした体制の日本画壇に反逆し、「日本画」の概念をくつがえすような表現を行い、戦後日本美術の流れの中でも特異な存在とみなされてきました。とはいえ、その活動は孤絶したものではなく、同時代の作家たちと深くつながり、台風の目のように周囲を巻き込んで美術界に波乱を巻き起こし、美術作家を取り巻く社会の在り方について問題提起をつづけました。

生誕100年を記念する本展は、代表作による画業の概観はもちろんのこと、そうした交友関係にも着目し、関連する作家たちの作品もあわせて紹介することで、周囲との関係性の中にあらためて正義を見出すものです。また、映画や舞台美術、住宅や写楽研究など正義の関わった多様な活動にも焦点をあて、約180点の作品と資料から正義の実像に迫ります。

「正義不在」となって半世紀が経過した現在—ふたたび正義とめぐり逢えるこの機に、その「熱」と「渦」をぜひ体感してください。

# 第I章 研鑽の時代 —日展と蒼野社

中村岳陵の画塾(蒼野社)に入門早々、日展初入選を果たしたのは正義22歳の時。以後、二度にわたって特選を獲得し、画壇の注目を集めた。1946年以降の研鑽期から日展特選作家となるまでの展開を代表作で追うとともに、師岳陵や兄弟子たちの同時期の作品を紹介し、若き日の正義を育んだ画塾(蒼野社)の社風をみる。



中村正義《斜陽》1946年 豊橋市美術博物館蔵



中村岳陵《気球揚る》1950年 東京国立近代美術館蔵[前期展示]



高山辰雄《室内》1952年 世田谷美術館蔵



中村正義《舞妓》1958年 荒井神社蔵

# 第II章 反逆の兆し —日展復帰と一采社

快進撃を続けた正義も病には勝てず、4年余りの療養生活を送る。1958年の復帰後に発表された一連の日展委嘱作品には、それまでとは異なる正義の方向性と戦略、画家として個性を確立しようとする意志が垣間見える。そうした正義の変化と実験性に影響を及ぼした高山辰雄や山本丘人など、研究グループ(一采社)に関わる作家たちの作品も合わせて展観する。



中村正義《不動八大童子》1960年 亀岳林 万松寺蔵

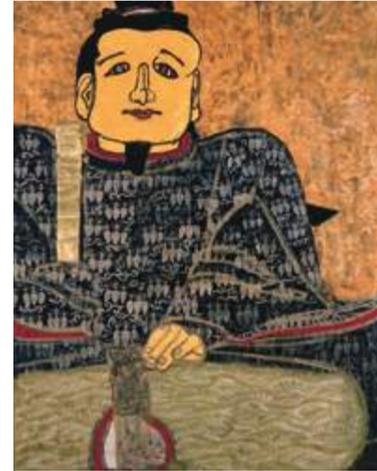
# 中村 村 正義

NAKAMURA

MASAYOSHI

—その熱と渦—

1961年に日展を脱退した正義は、従来の「日本画」のイメージとは真逆の色彩と表現、手法で画壇を挑発。一方で在野画家たちとのつながりを求め、針生一郎らに呼びかけて(日本画研究会)を発足した。この時期の大胆不敵な正義の表現に加え、研究会の片岡球子や横山操・加山又造をはじめ、正義が導いた地元の在野画家たちの個性が会場で競い合う。



片岡球子《面構 足利尊氏》1965年 神奈川県立近代美術館蔵[前期展示]



岡本太郎《記念撮影》1975年 川崎市岡本太郎美術館蔵



中村正義《爽(右隻)》1966年 愛知県美術館蔵[前期展示]



中村正義《ヒエロ》1975年 神奈川県立近代美術館蔵

## 第III章

## 日本画壇への挑戦 —日本画研究会発足



横山操《富士雷鳴》1961年 三重県立美術館蔵[前期展示]



中村正義《男女》1963年 名古屋市美術館蔵[後期展示]

星野真吾・山下菊二らと美術グループ(人会)を結成し、活動を開始した正義。その会場問題が端緒となって(東京展)市民運動へと展開する。事務局局長として奔走する一方、癌の転移による闘病生活を余儀なくされ、作品はしだいに死の影を深めていく。(人会)の同志や(東京展)に力を添えた井上長三郎・岡本太郎らの作品とともに、凄絶な晩期の作品をみる。

三上誠《女の輪廻》1967年 日本画館蔵

## 生と死の狭間で —人会と東京展

## 第IV章